



『竹林整備に対する補助制度について』 『住民提案型事業・中学生の安全対策について』

竹林整備に対する補助制度について

本町における竹林の課題認識について尋ねる。

(町長) 竹林の管理を担う生産者の高齢化が進み、高齢化に伴う労働力の減少や後継者不足により、竹林管理が行き届かず荒廃が進んでいる状況で、住環境に及ぼす影響等についても危惧している。

町が行っている竹林整備に対する補助について尋ねる。

(町長) 平成 29 年度から、町内在住で町内の竹林を伐採した竹を竹材加工等事業者「難関突破プロジェクト合同会社」に搬入された方を対象に補助を実施している。また、令和 4 年度より、竹林の整備を行う者に粉碎機等のリース代の一部を補助する事業も追加している。

荒廃竹林整備に対する新たな補助制度の考えはあるか町の見解を尋ねる。

(町長) 適切な管理と活用が急務であると認識している。他の自治体の取組みを参考にしながら、現在ある補助制度の推進を図り、更なる補助制度の検討も必要であると考えている。



南関町住民提案型事業について

令和 6 年度までの実績について尋ねる。

(町長) 令和 4 年度は、計 9 件で、合計 2,501,382 円の補助。令和 5 年度は、計 7 件で、合計 1,565,000 円の補助。令和 6 年度は通常タイプに加え、町が設定したテーマに沿って提案される「テーマ設定タイプ」を新設し、合計 4 件で、904,000 円の補助を行った。

課題について尋ねる。

(町長) イベントや行事を開催する場合、集客ができる会場、駐車場の確保等を考えたときに、会場の選択肢が限られる。改修した ukara はもちろん、教育委員会にも相談し、各小学校を会場とするなど各校区で平均的に実施できればと思う。また、新たな人材の掘り起こしによる新たな事業への取組等裾野を広げていければと考えている。

人材の掘り起こしにもつながる情報の公開について、今後、過去の実績等をホームページに掲載することは可能なのかを尋ねる。

(まちづくり課長) 新たな人材の掘り起こしと今後、新たな事業を企画されていく上で参考になると思うので、公表に向けて準備をしていきたい。



文教厚生常任副委員長
広報常任委員
議会運営委員

福山美佳

中学生の安全対策について

暗い時間帯の登下校の際、安全たすきだけでは不十分との声がある。発光素材の入ったジャンパー等の支給はできないかを尋ねる。

(教育長) 「安全たすきだけでは不十分」というご意見は、見過ごしてはいけなく考える。生徒や保護者、学校に暗い時間帯での安全確保について調査を行い、併せて、近隣の取組について調査し効果的な手法等について研究し、南関町での取組に生かしていきたい。また、下校時の生徒自身の安全意識を高める取組も学校と連携して進めていく。

部活動について顧問の教員が不在の場合や、席を外す場合、どのような対応をとっているのか、また、さらなる安全対策のために行っていくことができるのかを尋ねる。

(教育課長) 顧問またはコーチが不在時には、活動を中止する。どうしても必要な場合は、他の教師が練習に付く対応をしている。また、さらなる安全対策として、練習環境の安全性確保についての再確認、生徒への安全意識啓発指導体制の強化など、検討し対策を講じていきたいと考えている。



総務産業常任副委員長
議会運営委員
有明広域行政事務組合議員

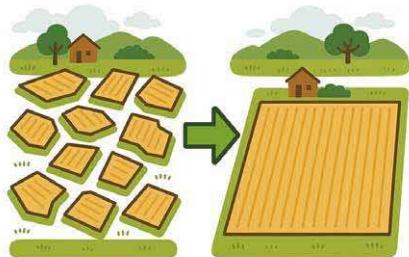
西田恵介

農業振興について

将来の農地利用の姿と課題、令和7年度施政方針の中で「産業経済費補助金の強化」という内容があるが、その具体的な計画を尋ねる。

(町長) 基盤整備と一体となって担い手への農地の集積や、整備済の地域では集落営農組織の設立・育成など、生産基盤の実情に応じた地域営農組織等担い手の確保・育成と農地集積による生産性向上、柱となる作物の導入による経営の安定化を図るため、JAをはじめ、関係機関等との連携を密にし、持続的な支援を行っている。

「南関町産業経済費補助金の強化」については今年度より新たな取り組みのふるさと納税額の増額を目指し、自主財源の確保に努め、補助金の強化による支援策を検討している。



『農業振興について』 『職員の早期退職について』



動画視聴できます

「南関町産業経済費補助金の強化」の計画、時期について尋ねる。

(町長) 先日がまだす隊の総会に参加し、若い方といろんな話をした中で、多くの意見を聞き、農業を守っていくためには経営がしやすいような体制をつくるということはもう十分理解している。そのためにふるさと納税の新たな契約を6月に行い、システムを導入するので、ふるさと納税の額が高まってくれば、令和8年度ではなく、令和7年度に補正で対応する。

確認だが、補助は上げるという方向ならば早めに周知してほしい。農業は農家として農地を守るだけでなく、やはり地域も守ってる。



職員の早期退職について

過去10年間の早期退職者数について尋ねる。また、業務への支障はないのか尋ねる。

(町長) 過去10年間（平成26年度～令和6年度）で申しますと、勧奨退職者は50歳代11名、40歳代3名、計14名。勧奨退職に該当しない自己都合退職者は20歳代4名、30歳代6名、計10名となっている。

業務の支障については、全く無いとはいえませんが、残された職員で、「住民サービスの低下がないよう」努めている。

面談等の町としての対応はどうしているのか。

(総務課長) まずは担当課長もしくは担当の職員の上司、総務課担当者で面談し、最終的には町長を含め、話をしている。

今後も適切な対応をしてほしい。



まとめ

農業振興や補助金の増額については、多くの方からご意見をいただき、質問した。町の農業はじめ、発展のためを思っている意見である。また、早期退職の件については職場環境を整え、働きやすい職場とすることがより町の進展につながると思う。今後も継続して結果を求めて進めていく。





『こどもの食について』

町の食育への取り組みについて

子どもから大人まで全ての人が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むために重要な教育、それが食育である。町の取り組みは。

(町長) 第4次南関町健康増進計画・第3次南関町食育推進計画を策定し、町全体で町民の主体的な健康づくりと食育を推進し、次代を担う子どもの健全な栄養摂取と食習慣の確立を目指していく。

全戸配布されたこの計画書の中に、食品添加物についての記述がない。また、アンケートの結果から、多くの町民が、食品の安全性に関する知識がないまま、毎日の食事をとっていることがわかる。

南関町の死亡原因は、毎年断トツに悪性新生物（がん）である。今の日本は2人に1人はがんになると半ば常識みたいになっている。人は体に取り込む空気と水と食べ物でできている。日本は空気も水もきれいなのに病気になる人は増えている。つまり食べ物が原因だと考えてもおかしくない。コンビニで売られている大半が超加工食品（様々な添加物を使って作られた、日持ちする安価な食品）。超加工食品の摂取が、死亡リスクを上昇させるデータがある。食品添加物がもたらす影響への警鐘こそが、食育には必要ではないか。この知識がないまま食べている町民がいるということは、食育の推進ができていないということ。そこに町の責任があると言っても、過言ではない。

(教育長) 食品添加物を含めた食の安全性については、教育の中でもしっかりと取り扱っていかねばいけない。

食品添加物は基準内で使われているから、心配要らないという声もあるが、塵も積もれば山となる。毎日食べたらどうなるかということだ。その判断ができるようにするのが教育であり、食育の肝ではないかと考える。

こども食堂について

こども食堂は、地域コミュニティの交流の場としてさらに必要な場所となっていく。校区ごとに最低1か所は必要であり、回数を増やすことも目指すべき取組だと考える。今後のビジョンを尋ねる。

(町長) 食事だけの提供にとどまらず、要保護児童の見守りや居場所づくりとしての福祉的な役割も担っている。今後は、やってみたいという思いを持つ団体がおられれば、個別に御相談を受けながら、必要な支援や助言を丁寧に行っていく。

こども食堂共通の課題として、①運営資金の不足 ②運営スタッフの不足 ③必要な人に届けるための周知広報が難しいがある。広報なんかへの常設の掲載枠を確保し、利用者向け、寄付希望者向け、運営スタッフ募集、新規開設希望者向けの情報を毎号発信し、町の姿勢をアピールすることを提案する。

(町長) こども食堂は重要である。今後開催の要請や活動報告、立ち上げについての紹介など、皆様に知っていただけるような情報発信に取り組んでいく。



文教厚生常任委員長
議会運営委員

北原浩一郎

学校給食について

学校給食は、成長期にある子どもたちの健康を保ち、よりよく成長できるよう、1日に必要とされる量の3分の1を取るように、栄養のバランスを考えた献立が作られている。砂糖、塩、マーガリンはどうか。

(教育長) 砂糖は三温糖、塩は沖縄の海水を使用したもの、マーガリンはトランス脂肪酸含有量低減のものを使用。

米は南関産100%、他の食材も町内産県内産を多く使用しているということだが、その中に、有機野菜や特栽培野菜はどれくらい入っているのか。

(教育長) 把握していない。

南関町でオーガニック給食は今の段階では難しいことは理解する。地産地消、安全安心をこれまで通り進めていきたい。
何を選び、何を食べるのか。町にはその判断のできる町民を増やす食育を、健康増進とともに推進し、健康寿命日本一を目指していただきたい。





総務産業常任委員長
議会運営委員
有明広域行政事務組合議員

杉村博明

町道迎町・旭町線の通学路 拡幅予定について

現在、途中まで拡幅され便利になっているが、その先の拡幅がされず、通学路として危ない状況であるが、拡幅の予定はないのかを尋ねる。

(町長) 町道迎町・旭町線は、南関橋を起点とし、山城産業株式会社入口を終点とする延長 700 m の町道で小中学生の通学路として、また地域の皆様の生活に欠かせない道路と認識している。

第一小学校周辺の道路に関しては、新庁舎建設事業に伴う周辺道路の整備状況等の質問のなかでも同路線に対し、一部区間において道路改良を実施したところである。

現在の改良済み区間としては竜瀬橋から町道日の出町・堀池園線交差点部を終点とする延長 133 m、幅員 5 m で一部の区間においては 2 m を整備しており、令和 2 年度に概略設計、令和 3 年度に詳細設計を行い、令和 4 年度に改良工事を実施し、令和 5 年 3 月共用を開始しており、同区間については家屋等の張り付きもなく地権者の方々の協力もいただき、児童生徒の通学路及び通行車両も安全・安心な道路が確保出来たところである。

今回の質問の道路区間は、現在の改

『通学路拡幅と農業に関する補助金について』



動画視聴できます

良済区間終点部から同路線の終点部までの区間と思うが、同区間の現状としては、延長 282 m、幅員 3.9 ～ 7.3 m で家屋・工場等が張り付き見通しが悪い箇所もあり、児童生徒の通学時に注意をしなければならない箇所があると認識している。

今後の拡幅計画については、一部区間においては農地があるものの家屋・工場等の張り付きが多く、計画には慎重にならざるを得ないと考えている。



町道堂の前・福山線の通学 路拡幅について

通学路として、道幅が狭く、非常に危険を要しているが、町の見解を尋ねる。

(町長) 町道堂の前・福山線は、町道関町中央線を起点とし関東の福山地区を終点とする町道となるが今回の質問の道路区間としては起点部の町道関町中央線から町道田町・古町線との交差点までの区間、延長 104.4 m、幅員 3.0 m ～ 5.1 m の町道で小中学生の通学路として、また、地域の皆様の生活に欠かせない道路として認識している。

一部車両の離合が出来る区間はあるものの大部分で幅員が狭い道路である。左側部に家の張り付きがあるが、右側部の農地が広がっている状況である。

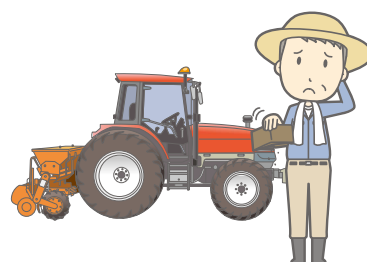
同区間においては、交通規制により午前 7 時 30 分から午前 8 時 30 分の時間帯規制区間に含まれており、児童生徒の登校時の安全が確保されている。

農業に関する補助金について

近年、物価高騰による格差が生じ、農業生産者は苦慮されているのが現状であり、機械等の購入もままならない状況であるが、町としての見解を問う。

(町長) 農業に関する補助金については、エネルギー価格の上昇、供給チェーンの混乱、地政学的緊張、需要の増加、通貨価格の変動などが挙げられるが、これらが複合的に作用し、農業に必要な機械や資材の価格が上昇し、農業生産者の方々が機械等の購入に苦慮されている現状は、町としても認識している。

このような状況に対応するため、圃場整備事業を進めるとともに農業生産組織等の設立を推進することにより地域の農業生産者が協力して経営を行うことでコストの削減や生産効率の向上が図られる。また、組織化により資源の共有や共同購入が可能となり、経済的な負担を軽減することが期待される。





境田『我が町で有害有機フッ素化合物が検出されたが』 税務住民課長『現在は大丈夫である』



総務産業常任委員

境田敏高

近年、注目を集めているのは、聞きなれない言葉であるが、特に PFOS（ピーフォス）・PFOA（ピーフォア）である。有害性と生物への蓄積性が大きな問題になっている。

国は水道水や河川、地下水について有害な有機フッ素化合物の PFOS（ピーフォス）＋PFOA（ピーフォア）の2種類の合計で1リットル当たり50 ナノグラム以下の暫定目標値を定めている。

エコア熊本の井戸から4倍の200 ナノ、民間の元処分場からの井戸から90 ナノが検出された。南関町と和木町の住民36世帯と13事業所に対して当面、井戸水の飲用を控えるよう注意喚起されたが、その後の対応はどのように進んでいるのか。

（税務住民課長）暫定値として、50 ナノグラムを下回ることが判明した時点で、報告を行っている。不在宅については説明のチラシを投函している。また、確定値についても個人宅を訪問し、伝えている。事業所については、電話で説明し、結果をメールで送っている。



有害な有機フッ素化合物は水に溶けやすく地下水や河川、土壌を通じて拡散する。飲み水などから人体に入ると血液や肝臓に堆積すると発がん性がある可能性から「最も高い発がん性がある」に引き上げられた。現在は有害性が懸念されている PFOS（ピーフォス）・PFOA（ピーフォア）の製造・輸入は禁止されている。町では水質支援検査補助金40万円、飲料水浄水器設置補助金の制度が設けられているが、浄水器で有害フッ素の PFOS（ピーフォス）、PFOA（ピーフォア）の除去はできるのか。

（税務住民課長）一定の除去ができる旨を発表している企業がある。



先ほど水道水の質問をしました。命の水を送る給水管のうち健康被害を及ぼす恐れのある「鉛管」、国は2004年に全廃を上げたが、2023年3月時点で203万件残っている。20年経過したが撤去が進んでいない。

健康被害が懸念されるが、わが町の現状を尋ねる。

（税務住民課長）町が管理している各公共施設があるが、全体的なことにより、総務課長に調べてもらった。結果としては、使用されていない。



まとめ

3年前に山口市に住んでいた30才代の男性が、体調不良のため検査したところ血中濃度の平均値の100倍もの鉛が検出され、アパートの大家に約700万円の支払いを命じた判決がでた。わが町もないように民間にも調査・指導をすべきだ。「命の水」の意味を考え私たちの身の回りに、いま起こっていることに関心を持ち行動することが自治で守る精神である。日本人は熱しやすく、冷めやすいといわれているが、この問題は、簡単には考えないようにしなければならない。

行政はしっかりとした監視体制と情報公開をする必要がある。

大蛇山振興会八劔会

& 広報委員



Q 南関大蛇山振興会八劔会とは

A 南関の大蛇山のルーツは、渡瀬祇園祭（みやま市下楠田・渡瀬地区）の流れのようで、もともとは南関町の中でも、八劔神社周辺の一部の地域行事として始まったものです。今では南関町を代表する夏祭りの一翼を担っています。

八劔会は、南関ぎおんさんの主役である「大蛇」の山車の作り手であり、祭り当日は、高さ5mにもなる大蛇山を引いて練り歩く“巡行”を取り仕切ります。約30年前、祭りが衰退傾向にあった時に、先人から受け継いできた伝統を途絶えさせまいと結成されました。



Q 会員数、年齢構成など、教えてください。

A 会員は約70名。年齢構成は10代～70代までと幅広く、会の特徴としては、働く現役世代が多く活気に満ちています。



Q 今年参加する祭りの予定や巡行について教えてください。（取材日：7月10日）

A 7月19日（土） ホテルセキアの祭り
7月27日（日） おおむた大蛇山まつり
8月2日（土） 南関ぎおんさん

南関ぎおんさんが本番であり、朝巡行と夜巡行があります。

朝巡行は、暑い中ではありますが、こども達为中心となり、大蛇山を動かすロープを引っ張り、街中を巡行します。

夜巡行が花形であり、街中の民家の玄関先で太鼓と鐘のリズムに乗り、大蛇が火を噴く「ふかし」を行い、家内安全、無病息災を願います。また、巡行途中では、「かませ」を行います。その年に誕生した子どもの無病息災を願って、大蛇に子どもを「かませ」る行事のこと。まちを練り歩く大蛇の大きな口の前に「よいしょー！よいしょー！」の掛け声と共に、子どもが担ぎ上げられると、盛大な泣き声が響き渡ります。

大蛇山は、毎年ゼロから作り、八劔神社の神事により魂を入れ、祭りの最後に「山崩し」があります。その年に作った大蛇山は、祭りが終わると同時に、自分たちの手で全て崩し、燃やすことで魂をぬきます。大蛇の目や牙などの部位は、家内安全・無病息災のご利益があるとされ、縁起物として持ち帰られます。



Q 製作者にお聞きしますが、今年の大蛇山の特徴は。

A 毎年大蛇は、南関ぎおんさん用と大牟田大蛇山まつり用と2体製作します。

なんかんぎおんさん用は、伝統の作り方で、「極力変えない」を意識して作成。

大牟田大蛇山まつり用は、その年の製作者のイメージで作成します。今年は「般若の面みたいに極力怖いイメージ」で正面から目が見えないようにしています。そういう意味では、失敗をおそれずチャレンジできます。



Q 頭（かしら）にお聞きしますが、今年はどんな巡行にしたいですか。

A 巡行は例年どおり伝統を守り、誇り持ってやりたい。「かませ」もどんどんやって賑わったらいと思います。

Q 今年は巡行コースが変わったことについてお聞きします。

A 今年は巡行コースが、防災広場の方に入るコースとなりました。大蛇山巡行は神事であり、基本的には変えないという想いがあるので、来年は元に戻したいです。

Q 今後の課題等あれば、教えてください。

A 現在大蛇山の製作は個人宅で行っています。この伝統を将来に渡し継承していくためには、きちんとした製作場所や山車の保管場所の確保が必要です。例えば、旧うから館のボイラー室建屋が使えたら良いと思っています。

南関大蛇山振興会八剣会

会 長 小 出 祐 二 さん
副会長 國 崎 博 之 さん
副会長 嶋 永 健 一 さん



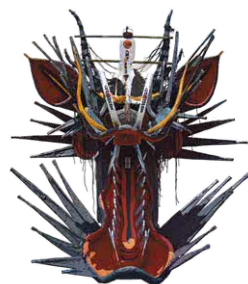
前列左から

松 尾 一 司 さん
立 山 直 幸 さん（ぎおん頭）
山 下 大 樹 さん（頭）

後列左から

古 賀 翼 さん
井 上 魁 人 さん
釘 本 真 気 さん
畑 中 泰 弘 さん
古 賀 和 喜 さん

※写っておられない会員 約 60 名



南関大蛇山振興会八剣会、南関にはいろんな集まりや会がありますが、その中でも若者が多く活気のある集まりでした。

「なんかんぎおんさん」が、毎年多くの方々の協力のもと、開催されること、心より感謝申し上げます。商売繁盛や五穀豊穡、そして無病息災を祈りながら、地域の伝統を後世に繋げる大切な行事であると再認識いたしました。今後も町のにぎわい創出と地域の活性化に繋がるよう、我々も町民として、そして議員として応援していきます。

広報常任委員会

私が考える、南関町の未来



南関中3年
ひんこうじ なつき
牝小路 菜月さん

南関町に感謝したいことがたくさんあります。主に三つあり、一つ目は自然が豊かなところです。南関町には木がたくさんあることで環境に優しい町だと思います。また、季節ごとに違う花がたくさん咲きます。大津山や古小代の里には写真を撮りに観光客がたくさん来られます。五月には蛍が飛び、ホタルの里で見ることができます。そして、山の水がきれいなので美味しいお米が取れます。二つ目は、遺跡が残っているところです。南関町には南関城跡や横穴墓群があります。南関町には歴史があり、誰かのお陰で私たちの命が繋がれていることが分かります。三つ目は人が優しいところです。登下校には、地域の方が挨拶をしてくださったりし、見守りをしてくださり、部活で疲れていても「おかえり」と声をかけていただき心が温まります。また、美化作業や資源回収にも協力していただいています。

このように南関町にはいいところがあり、たくさんのことに感謝しています。これらは誰かのおかげで保たれてきたので、これからは私たちが、自然に興味を持ち自然と触れ合って保ち、今ある素敵な南関町を保っていきたいです。

南関町に住む18才未満の人たちに、町の未来を語ってもらうコーナーです。

議会を 傍聴しませんか



定例議会は年に4回
3月、6月、9月、12月に開催。

- どなたでも傍聴できます。
- 定員 30人

議会日誌

■4月

- 4月1日(火) 広報常任委員会
- 4月3日(木) 文教厚生常任委員会
- 4月8日(火) 総務産業常任委員会
- 4月10日(木) 全員協議会
- 4月17日(木) 広報常任委員会
- 4月28日(月) 広報常任委員会

■5月

- 5月1日(木) 広報常任委員会
- 5月7日(水) 総務産業常任委員会
- 5月8日(木) 全員協議会
- 5月13日(火) 議会運営委員会

■6月

- 6月3日(火) 第3回定例会
- 6月4日(水) 第3回定例会
- 総務産業常任委員会
- 文教厚生常任委員会
- 広報常任委員会
- 議会運営委員会
- 6月5日(木) 全員協議会
- 6月6日(金) 第3回定例会

ティーブレイク



夏本番、猛暑日が続いている中「生活不活病」をご存じでしょうか？ 日々の活動量が減ることで身体の機能が衰える病気です。筋力が弱まる、自律神経の乱れなどの症状を引き起こします。

体を動かす他に意外な予防法として「会話」が大事です。脳への良い刺激になり、幸せホルモン・オキシトシンを分泌させ、ストレスを和らげてくれます。

みなさま、日々の生活において健康寿命を延ばし、楽しく元気に過ごしましょう。

(矢野修一)



□発行責任者

議長 立山 秀喜

□編集(広報常任委員会)

委員長 伊藤 博長
委員 山口 純子

副委員長 矢野 修一
委員 福山 美佳